

市場の働き方改革など議論

戎井室長ら講演やパネル討議

パーソナル情報システム㈱（東京・港区、森本晋司社長）は18日、水産業界を取り巻くタイムリーな話題を提供する「第41回全国生鮮流通フォーラム」の2日目を豊洲市場で開催し、市場の働き方改革などに関する講演やパネルディスカッションを行った。

農林水産省新事業・食品産業部食品流通課卸売

市場室の戎井靖貴室長は、「人口減少の時代に卸売市場はどう立ち向かうのかをテーマに講演。効率的な市場を目指すため、省人化につながるデジタル化の必要性などについて話した。

戎井室長は、大阪鶴見花き地方卸売市場（大阪市の鶴なにわ花いちば、㈱JF鶴見花きの事例を紹介。2社は新型コロナウイルス

ウィルス禍を契機に、業務提携を締結し共通のインターネット取引システムを導入し、完全オンライン取引に移行した。

セリ時刻は朝6時30分から前日の夜7時に前倒しとなり、人員は55人から11人に削減。産地や買参人への営業などに人手を回せるようになったほか、深夜・早朝勤務削減や物流のリードタイム確

フォーラムの様子



保、荷待ち時間の解消などにつながったという。当初は買参人から否定

参加できない遠方への商圏拡張のほか、若年層の離職率改善、画像撮影を

的な声もあったが、現実を挙げた。

在は「計画的に仕事の段取りを取れるようにした」など肯定的な意見が多数を占めるといふ。

戎井室長は市場側のメリットとして、オフラインでは7年ほど前から働き方改革を積極的に行ってきた。

業務内容が属人的で休みを取りにくい点などを改善するため、社内全体での業務共有化ツールや時間単位での有給休暇などを導入。4つの営業部門にまたがる「営業推進部」を設置し、全業務の見える化を推進し離職率の低下につなげているという。

パネルディスカッションではほかにも、東京シティ青果㈱（東京・江東区）の森竜哉社長、㈱石巻青果（宮城・東松島市）の菊池和彦社長、富良野地方卸売市場㈱（北海道富良野市）の井山修社長が参加した。

